

# 第1章 秋田県のすがた

## 第1節 地勢・沿革

### 1 地 勢

本県は、首都東京のほぼ真北約450kmの日本海沿岸にあって面積11,613.11km<sup>2</sup>（全国第6位）、9市50町10村に区分されています。

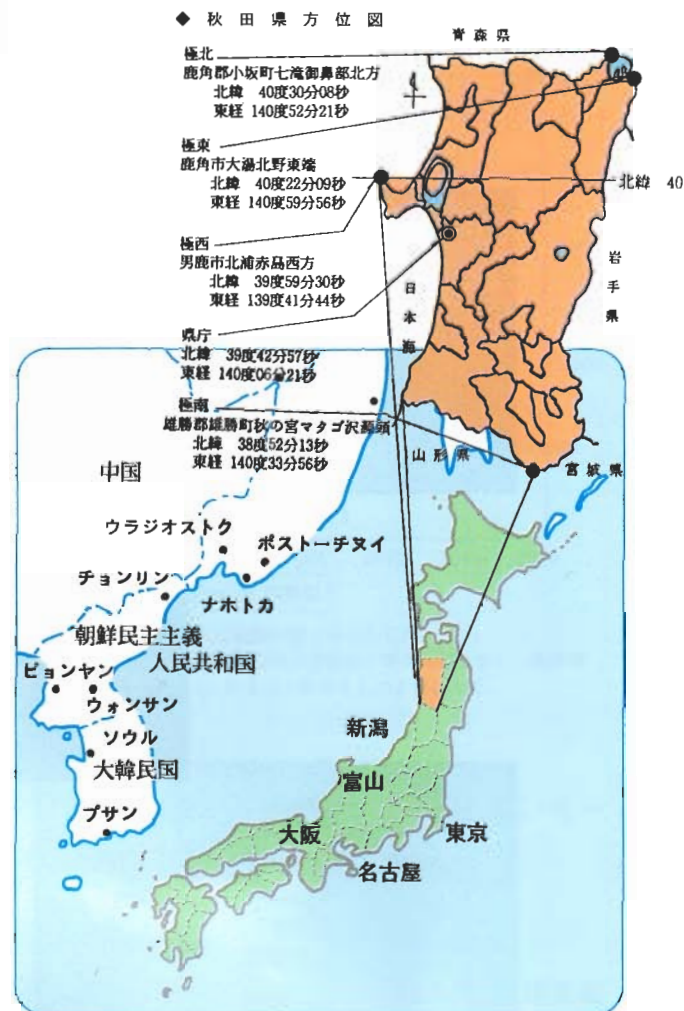
県北には、鷹巣、大館、花輪の諸盆地、県南は横手盆地などをつくり、一方、雄物川、米代川、子吉川などの河川に沿って肥沃な耕地を展開し、その下流には秋田、能代、本荘の各平野を開き多くの都市を發展させています。

### 2 沿 革

明治4年の廃藩置県によって、秋田県が誕生して以来、多くの人々が郷土の發展に力を尽くし、今日の秋田が築かれてきました。

昭和26年の「秋田県総合開発計画」以来、その時々の経済社会情勢に応じた計画の基本目標やテーマを設定しながら、数次にわたる総合計画を策定してきました。

今年度からスタートする「あきた21総合計画」では、「安全・安心に楽しく暮らす秋田」等の五つの基本目標を掲げ、「時と豊かに暮らす秋田」の実現をめざしています。

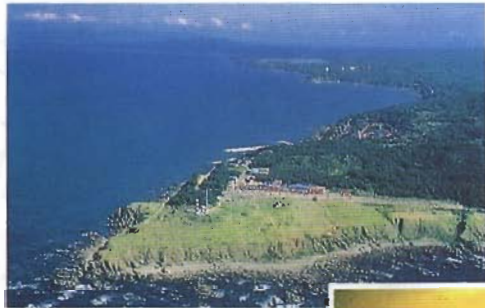


年月日	羽 後 国	陸 中 国	
明治元年	久保田領 秋山河仙平雄 田本辺北鹿勝 郡郡郡郡郡 久保田藩	龜本矢仁 田莊島賀 領領領領 由利郡 龜本矢酒 田莊島田 藩藩藩藩 (民政局)	南部領 鹿角郡 南部藩
明治3年2月24日	岩崎藩(雄勝郡東部)立藩		
明治4年1月13日	久保田藩を秋田藩と改称		
明治4年7月14日 (廃藩置県)	秋田県	岩崎県 龜田県 本莊県 矢島県 酒田県 江刺県	
明治4年11月2日	秋田県	岩崎県、龜田県、本莊県、矢島県、酒田県の一部(旧仁賀保領)及び江刺県のうちいまの鹿角市、鹿角郡を編入し、現在の秋田県を形成した。	

## 第2節 自然・気象

### 1 自然

本県は、全国で6番目という広い面積をもち、春の新緑、夏の空と海の青さ、秋の紅葉、冬の雪景色といった色彩感あふれる四季の変化に富んだ自然を誇り、そのいづきを身近に感じながら生活することができます。



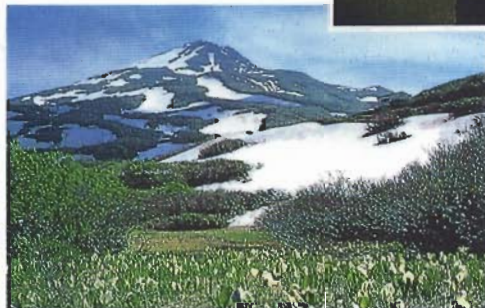
北緯40°の入道崎



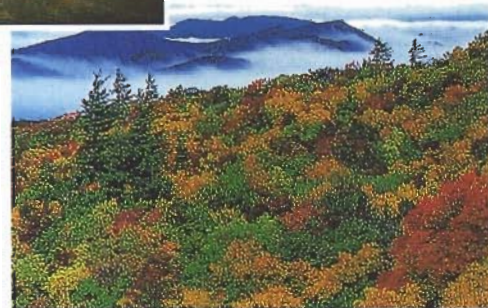
静寂の十和田湖



朝明けの田沢湖



早春の烏海山



紅葉の奥駈

### 2 気候

当県の気候は、概ね出羽山地により海岸部と内陸部の2つに区分されます。海岸部は全般的に対島海流の影響を受けてしのぎやすく、冬期間でも積雪は少なめです。

内陸部は夏には比較的高温となり、冬は寒さが厳しく積雪も多くなります。県の面積のほぼ半分を占める24市町村が特別豪雪地帯として指定されています。

全般に長い冬と短い夏が特徴で、四季の変化がはっきりしています。

	秋 田	札 幌	仙 台	東 京
最低気温(℃)	-7.1	-15.8	-6.7	-0.8
最高気温(℃)	35.1	31.5	33.6	36.1
年平均気温(℃)	12.3	8.8	12.7	16.7
年降水量(mm)	2,142	1,155	1,419	1,547
快晴日数(日)	15	22	7	30
降水日数(日)	162	138	109	119
雪日数(日)	93	120	66	11

資料：平成10年「気象庁年報」

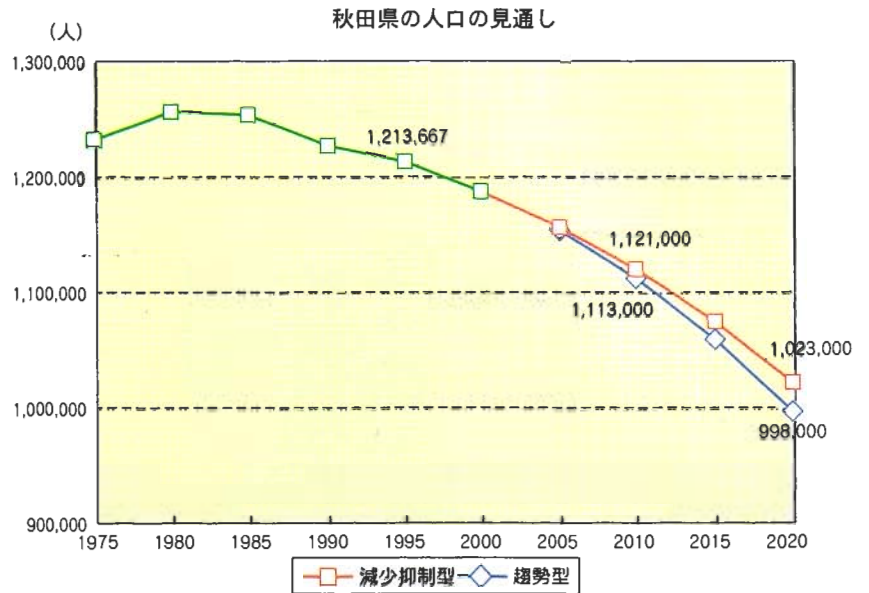
# 第3節 人口・産業構造

## 1 人口

当県の人口は昭和57年(1982年)から減少に転じ、平成10年(1998年)には約120万人となっています。「あきた21総合計画」では、減少抑制型で、平成32年(2020年)には約102万人になると推計しています。

人口動態についてみると、自然動態は平成5年(1993年)に減少に転じ、平成10年では、約2,000人の減となっています。一方、社会動態は、一貫して減少傾向であり、減少幅は近年縮小傾向にあるものの、平成10年は約2,500人の減となっています。

また年齢別では、年少人口(0~14歳)、生産年齢人口(15~64歳)の割合が年々低下している一方、老年人口(65歳以上)の割合は、上昇しており、平成10年は22%となっています。



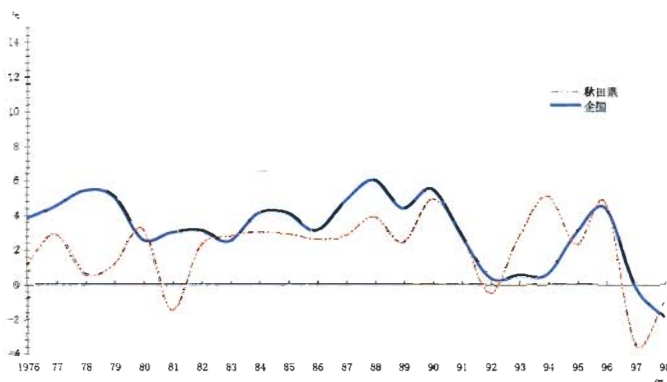
注1) 趨勢型は、直近5カ年(1990~1995)の人口動態が続くものとした。  
 注2) 減少抑制型は、2020~2025までに15歳から24歳の社会移動減少率が半減、また、合計特殊出生率が1.57(1993~1997年の平均)から1.85まで上昇するものと見込んだ。  
 資料:「あきた21総合計画」より

## 2 経済・産業構造

昭和51年から平成10年(1998年)までの経済成長率を全国と比較してみると、全国と似た軌跡を描いています。全国に占めるGDPの割合は0.8%(平成10年速報値)となっています。

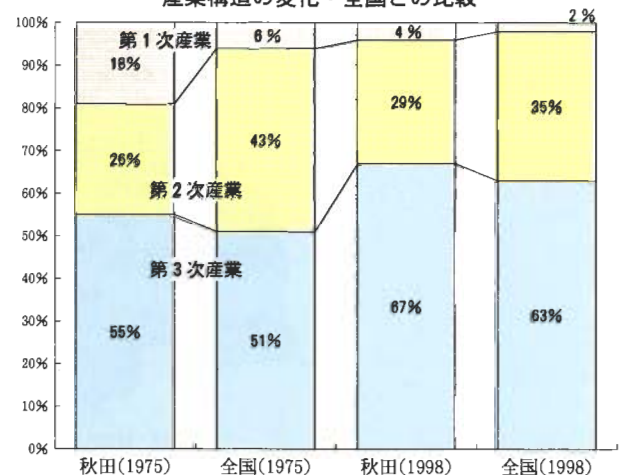
産業構造の推移を県内総生産でみると、昭和50年(1975年)に18%あった第一次産業のシェアが平成10年(1998年)には4%と大幅に縮小しています。また、全国との比較でみると第3次産業の伸びの割合が高いことがわかります。

全国と秋田県の経済成長率(実質)の推移



資料:「国民経済計算」(経済企画庁)、「秋田県県民経済計算」(秋田県)より作成

産業構造の変化・全国との比較



資料:「国民経済計算」(経済企画庁)、「秋田県県民経済計算」(秋田県)より作成  
 ※ それぞれ名目数。秋田県は年次、全国は暦年ベース。秋田県の1998年分は速報値による。四捨五入の関係で合計値は必ずしも100%とならない。

### 3 面 積

本県の総面積は約11,613km<sup>2</sup>、全国第6位で、下位5都府県（神奈川県、沖縄県、東京都、大阪府、香川県）の合計を上回ります。

また、県土面積が広大なだけに、各市町村の面積規模も比較的大きく、県内の上位4市町（鹿角市、田沢湖町、秋田市、大館市）の合計だけで東京都を上回り、沖縄県にほぼ等しい面積になります。

◆秋田県市町村区域図

